

令和 7 年度旭区区政会議 第 1 回全体会議 会議録

1 開催日時

令和 7 年 8 月 6 日(水) 午後 7 時から午後 8 時15分

2 開催場所

旭区役所 第 2 ・ 3 会議室

3 出席者

(1) 委員

藤田議長、加藤副議長、石川委員、石飛委員、入夏委員、宇田委員、内田委員、隠岐委員、鎌田委員、久保委員、近藤委員、齋藤委員、嶋津委員、谷井委員、種野委員、出蔵委員、森田委員、山崎収一委員、山崎真弓委員、山下委員、吉川委員、渡邊委員

(2) 旭区役所

福岡区長、松原副区長、宮崎企画課長、大前総務課長、仙田地域課長、藪内防災安全課長、宗光まち魅力課長、宮下窓口サービス課住民情報担当課長代理課長、長谷村福祉課長、戸田保健子育て課長、鶴身生活支援課長 他

4 次第

(1) 開会

(2) 区長あいさつ

(3) 議題

令和 6 年度旭区運営方針の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 議事内容

○大町旭区役所企画課担当係長

ただいまより、令和 7 年度第 1 回旭区区政会議を開会いたします。本日はご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます、旭区役所企画課担当係長の大町でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日の会議は、動画配信サイト YouTube の当区役所チャンネルにおいて、会議の様子をライブ配信しておりますことをお伝え申し上げます。

それでは、会議開催にあたりまして、区長からご挨拶申し上げます。

○福岡旭区長

皆様こんばんは。区長の福岡でございます。委員の皆様方にはお忙しい折、昼間の暑さの残る中ご出席賜りありがとうございます。また、市議員の先生方にはオブザーバーとしてご出席を賜り、誠にありがとうございます。

先日の各部会では令和 6 年度の運営方針を振り返り、区役所が自己評価したものについて具体的な取組を中心にご説明、ご報告させていただきました。

本日は全体会議として区政運営方針全体の総括と各担当より、特徴的な取組に絞って説明させていただきたいと存じます。刻々と変化する時代の動きや、ますます複雑、多様化するニーズを踏まえつつ、本日皆様方より大所高所からのご見解、ご意見をいただきながら、令和 7 年度の区政の着実な執行、さらには令和 8 年度に向けた予算編成や考え方の整理にしっかり繋げ、旭区政がよりよいものとなるよう常にアップデートを図ってまいります。本日は最後までよろしくお願いいたします。

○大町旭区役所企画課担当係長

次に、区政会議は条例の規定によりまして、開催要件として委員の定数の 2 分の 1 以上の出席が必要となっております。現在、定数 30 名のところ 22 名ご出席いただいておりますので本会は有効に成立しておりますことをここにご報告させていただきます。また、当会議は公開としておりまして、後日会議録を公開することとしております。そのため、会議を録音させていただいておりますのでご意見、ご質問の際はマイクを使用してのご発言にご協力をお願いいたします。

本日お配りしております資料は、次第に記載のとおり資料 1、資料 2 となっております。事前に配付させていただきました資料をお持ちいただいた委員の皆様におかれましては、本日は令和 6 年度旭区運営方針戦略別シートを資料 1、令和 6 年度旭区運営方針の本様式を資料 2 とさせていただいておりますので、お取り扱いについてよろしくお願いいたします。資料はお揃いでしょうか。本日もご出席いただいている委員の

皆様並びに区役所側の出席者につきましては、出席者名簿および配席図をお配りしておりますので、個々のご紹介は省略させていただきます。

また、本日は市会議員の皆様にもオブザーバーとしてご臨席賜っておりますので、ご紹介させていただきます。

西崎議員でございます。

○西崎議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○大町旭区役所企画課担当係長

福田議員でございます。

○福田議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○大町旭区役所企画課担当係長

宮脇議員でございます。

○宮脇議員

こんばんは。よろしくお願いします。

○大町旭区役所企画課担当係長

続きまして、本日の会議に先立って開催しました令和7年7月29日の子育て・やさしさ部会、また、同月30日の活力・安全部会でいただいたご意見などの内容について、各部会長よりご報告いただきます。

まずは子育て・やさしさ部会の藤田部会長どうぞよろしくお願いいたします。

○藤田議長

はい、藤田でございます。よろしくお願いします。子育て・やさしさ部会の報告をさせていただきます。

令和7年7月29日火曜日に旭区役所の第2・3会議室で午後7時から午後7時35分まで、15名中11名の委員ご参加のもと開催しました。議題では、事務局から令和6年度旭区運営方針の評価に関して、子育て・やさしさ部会の該当項目についてご説明をいただきました。その中で、各具体的取組に係る取組実績や課題、改善策、7年度の取組における運用上のポイント等につきまして、各担当課長よりご説明をいただきました。その後、質疑応答の場を設けましたが、各委員からのご意見ご質問等は特

にございました。概ね計画どおりの取組が着実に実行されているという印象を受けました。子育て・やさしさ部会からの報告は以上となります。

○大町旭区役所企画課担当係長

ありがとうございました。続きまして活力・安全部会の加藤部会長、お願いいたします。

○加藤副議長

こんばんは、加藤です。活力・安全部会の報告です。令和7年7月30日水曜日に旭区役所第2・3会議室で午後7時から午後7時50分まで15名中9名の委員のご参加のもと開催いたしました。議題では、事務局から令和6年度旭区運営方針の評価に関して、活力・安全部会の該当項目についてご説明をいただきました。その中で、各具体的取組に係る取組実績や課題、改善策、7年度の取組における運用上のポイントなどについて各担当課長よりご説明をいただきました。その後、区役所から委員より事前にいただいておりますご質問の回答を行いました。

まず、地域コミュニティの関連では地域の事務を各地域に任せるのではなく役所において代行や複数地域を統合した事務管理の支援はできないか。また、町会活動について区役所の支援ではなく、区役所主体に変えて欲しいとのご意見があり、事務局からは、町会活動については地域住民の皆様自らが運営される組織であると考えている。そのため、区役所が事務を代行することは、自治の趣旨にそぐわないこと、また、複数地域の事務統合による管理も地域の実情や独自の取組があるため、現段階では一律の支援体制を整えることは困難であると考えている。しかしながら、地域の負担軽減や運営の効率化に繋がるよう、支援のあり方について引き続き検討していきたいとの回答がありました。

また、防災に関して防災リーダーの中でも高齢化、人員不足による運営が不安であること、また、町会ごとの人数や平均年齢の開示についてご質問があり、事務局からは、担い手不足についてはより多くの若い世代の方が参加していただくということを重点に置き、取組内容についても、地域の方々と相談、工夫を凝らしていく。また、人数や平均年齢については、旭区の防災リーダーは328名で平均年齢は65歳であること、町会ごとの名簿などの開示については個人情報保護の観点もあるため、地域事情などを整理しできる限り情報共有できるようにしたいと回答がありました。

その他、当日いただいた委員からの主な意見として、地域コミュニティの関連では町会の役員が減る中で、積極的に楽しいイベントを開催すれば多くの方と知り合いになることができ、その結果、役員になってもらえる人が増えたと実体験のご意見がありました。事務局からは地域の中で声をかけて盛り上がっていくことは大事なことです。とても良い取組であり、取組の好事例としてほかの地域にも紹介していきたいとの回答がありました。

そのほかにも引き続き地域コミュニティについて、「スポーツフェスティバル」の参加者が少ないため、見直した方が良いのではないかと。また、生涯学習について、推進員の固定化や活動状況が見えにくいといったご意見、人権啓発推進委員については活動内容に変化がなく、他区の事例を参考にしたら良いのではとのご意見がありました。事務局からはスポーツ大会についてはメンバー集めが厳しいことは認識しているため、今後運営について実行委員会と検討していきたい。また、生涯学習活動に関しては10校で実施しており、「生涯学習ルームフェスティバル」も盛大に開催している。人権啓発については、今後の取組内容について、推進員と話し合い、協議しながら進めていきたいと回答がありました。

また、部会の取り扱い事項ではございませんが万博の関連事項についてもご意見があり、万博に行った中学生の話では、あまり見学ができず面白くなかったと聞いたため参加の有無や見学内容を考え直した方が良いのではとのご意見がありました。事務局からは万博の見学の有無は学校の希望調査に基づいている。また、見学内容についても、何を目的に何を見るかなどは学校で検討されていると聞いている。ご意見があったことは、校長会にて報告させていただくとの回答がありました。

活力・安全部会からの報告は以上となります。

○大町旭区役所企画課担当係長

ありがとうございました。それでは、これより議題に入らせていただきますが、以降の議事進行につきましては藤田議長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤田議長

それでは早速、次第に沿って進めさせていただきます。議題の令和6年度旭区運営方針の評価について、事務局より説明をお願いします。

○宮崎旭区役所企画課長

それでは私からまず説明の流れについてご説明申し上げます。今回は令和6年度の運営方針の振り返りの自己評価につきましてご説明をし、ご意見をいただくこととしております。既に開催いたしました2つの部会におきまして、具体的な取組内容や、令和6年度の取組結果を踏まえた現在進行形であります令和7年度の取組に反映している点などをご説明し、ご意見をいただき、先ほど各部会長からご報告をいただいたところでございます。本日はこの後、区役所側から説明させていただきますけれども、まず、具体的取組の特徴的な部分につきまして、この間会議の説明等わかりやすくということで再三ご意見もいただいておりますことから、初めての試みになりますが、映像を使ってご紹介をさせていただきます。続いて、こちらのカラー刷りの資料1の戦略ごとの各ページの下段に記載をしております「指標の達成状況」「課題」「今後の対応方向」につきまして、ご説明をいたしますとともに、最後にまとめとしまして、こちらの資料2の本様式の2枚めくっていただいた右側のところに「自己評価」と「今後の方針」というところがございます。こちらについてご説明をし、ご意見を賜りたいと思います。この後、各課長からご説明いたしますが、自己紹介などは行いませんのでご了承ください。また、着座にての説明をさせていただきますので合わせてご了承くださいたいと思います。それでは戦略ごとの取組を担当する各課長よりご説明を申し上げます。

○戸田旭区役所保健子育て課長

はい。私から資料1の1ページをご説明させていただきます。右端1-1-1から1-1-3になります。子育て支援の充実ということで取組を進めているところです。これまで子育て支援に係る取組につきましては、理念を中心にお話させていただいております。具体的な事業の中身について触れる機会が少なかったので今回はその具体的な事業の中身についてご説明させていただきたいと思っております。旭区はほかの区と比べましても、事業を非常に多く取り組んでいる区だと思っております。その中でも独自の代表的な取組についてご説明を申し上げます。

1-1-2の上から3番目、「あさひプレパママレッスン」からご説明します。「あさひプレパママレッスン」は父親などの男性の育児参加を促すため、子育てへの関心を高められるようなプログラムを実施しております。対象は旭区在住のパパママになられる方で令和6年度は4回実施しております。参加人数は各回21組、仕事をされている方が参加しやすいように、日曜日に開催をさせていただいております。

広報、ホームページなどでも周知してますが、右側のご案内チラシを母子手帳の交付時に全戸にお渡しさせていただいてご案内をしています。こちらが講習の様子になります。左側の写真が大阪府助産師会旭区班の助産師さんがデモンストレーションをしている様子になります。右側が実際にご自身たちに実施をしていただいている様子になります。

こちらはパパママ交流タイムを実施しております。パパとママが別々になって、保健師がファシリテーターになって、夫婦のコミュニケーションについて話し合っています。ここではいわゆる妊娠あるあるとか、あとパパですと嫁あるあるといった話題で非常に盛り上がっています。普段はパートナーに言えないことでも同じような立場で話せば笑い話になっているような感じですのでごく和やかな雰囲気交流タイムは進んでおります。こちらはパパの妊婦体験のシーンです。こちらはすごくママからの期待が高いんです。パパはママが妊娠してもお腹が重たい状態をなかなか気づいてもらえないということで、実際にお腹に重りをつけて階段の昇降や起き上がりをしています。中にはパパが、「いやこんな筋力あるから大丈夫や」とぽっと起き上がったりして得意げだったりするんですけど、助産師さんがお腹を指して、「そこに命が宿ってるんですよ。丁寧に扱ってあげてくださいね」というふうなこと軽く助言されるんですね。そうしたらママは結構ドヤ顔をしています。それを見てパパも「大事にせなあかん」ということで、なかなか良い雰囲気になっています。

左側が保育所情報の様子になります。右側が食育コーナーということで、栄養士さんによるミニ講習と離乳食作りの実施を行っているシーンです。

アンケート結果によりますと、満足していただいているところです。パパはママから誘われてこられる方が多くて、最初はすごくつまらなそうにしているんですけども、講習に参加するうちに楽しくなられるようで、非常に明るい顔で帰っていかれるというのがすごく印象的になってます。この講習に参加されることで、産後の生活イメージが上がっているようです。特に自分で体験したり、人の話を聞くことで不安が軽くなっておられるということで聞いています。今後につきましても継続してパパの育児参加の持続、それからママの不安解消をめざしてPDCA サイクルを回しながら、より良き教室の運営を実施させていただきたいというふうに思っております。

では次に 1-1-3 の上から 1 番目、各種講座の開催の「ベビープログラム」になります。「ベビープログラム」は親子の絆づくりプログラムのニックネームで頭文字を

とってBPと言われることが多いです。プログラムは講義形式ではなく、リラックスした雰囲気でお互いの状況や体験を話し合ったり、プログラムに参加するうちに自然に育児の知識やスキル、親の役割などを学んで深めてもらっています。BPには「赤ちゃんがきた」「きょうだいが生まれた」「幼児とともに」の3種類がありますけれども、旭区では赤ちゃんがきたのみを実施しております。

「赤ちゃんがきた」は生後2から5ヶ月の初めてのお子さんを育てているお母さんを対象にさせてもらっています。少し先を見通した育児に関する基礎知識を学ぶ場、それから育児を通じて仲間づくりをする場になっています。専門的に講習を受けたファシリテーターのもとで、赤ちゃんとの初めての出会い、赤ちゃんのいる生活、赤ちゃんとの接し方、親になることなどをテーマに、お母さん同士で話を進めています。

実際に赤ちゃんと一緒に学ぶ参加型のコースになっています。全4回のコースを年間4回実施しています。各回に大体12組から15組の親子が参加していただいています。

参加者の募集については広報やホームページで行っています。また第1子を出産されたママには、保健師や助産師から新生児訪問などで全員にご案内をさせてもらっているところです。

こんな雰囲気ですべてもらっています。安心して参加していただくことが一番大事なので、和気あいあいとした親しみやすい雰囲気づくりに我々も努めているところです。近くに親族とかママ友がいないという環境のママもたくさんおられます。初めての子育てで孤立、それから不安を増長させないように、同じ境遇の方がいること、大変なのは自分だけではないということを知るだけで安心に繋がっております。

こちらがテキストを使って学習している様子です。グループに分かれて自分の子育てについて話し合ってもらいます。テキストと読み合わせて自分の子育てについて振り返るということになっています。プログラムがきちっと決まっていますので、少し時間が長いなというような感想をおっしゃる方が多いんですけども、皆さん熱心に学んでおられます。

こちらは最終日に赤ちゃんが並んで記念撮影をしている雰囲気です。4日間のプログラムがありますが、お母さん方同士に一体感が芽生えて、仲良くなってママ友になれるような方もおられます。あとはほかのメンバーの赤ちゃんを抱っこする機会もあって、そのことで自分の赤ちゃんの特徴などに気づかれることも多いということです。

参加された方からは、自分の育児に不安があったけれども、多くのお母さんや赤ちゃんに関わって心に余裕が持てたとかほかのお子さんを見ることで自分の子の特徴がわかったとか、近くにも同じように大変な人がいることで前向きになれたとか、自分の気持ちを振り返るきっかけとなったとか子どもの時間を大事にしたいと思ったなどの感想をいただいております。今後も子育てママの不安や負担の軽減ができるように当事業を必要とする方に積極的に参加を促したいというふうに思っております。スライドは以上になります。

続きまして資料1の下段、アウトカム指標の達成状況でございます。「子育てに関する相談やサポートに満足していると答えた割合」につきまして、乳幼児健診時の保護者へのアンケートにおいて、91.8%の方が満足していると答えていただいております、目標値の85%を上回って達成となっております。近年、支援制度の浸透度につきましては、この間ずいぶん高くなっていると感じておりますが、先ほどのスライドでご紹介させていただいたような事業に参加していただいている方は比較的意識の高い方が多く、課題を抱えているとか相談できない方というのが我々の今後のターゲットになってこようかというふうに思っています。今後の方向性といたしましては、ハイリスク世帯へのアプローチも強化しつつ、課題のある全ての妊産婦および子育て世帯に対して必要な施策や事業の利用や参加について、アウトリーチなどの手法によって積極的に促していく方向で考えております。私からは以上です。

○宮崎旭区役所企画課長

続きましてページをめくっていただきまして裏面になります。戦略1-2 子どもへの教育支援等になります。具体的取組としましては、学校支援という立場で小中学生の学力・体力向上に向けた支援と、中高生の社会的自立に向けた支援を実施しております。本日は特に児童・生徒、教員の方にも大変好評いただいております「運動能力等向上サポート事業」と、「あさひ育み学び舎事業」について映像にてご紹介させていただきます。

まず「運動能力等向上サポート事業」ですが、事業の内容としましては小・中学校のご希望によりまして、運動種目に応じたインストラクターを派遣するという事業になります。子どもたちの運動能力の向上と先生方にも指導の面で指導方法の参考にいただいているということになります。小学校の跳び箱の授業の様子です。高殿小学校の様子になります。跳び箱を飛ぶためにはいくつかポイントがあるようでしてそ

の1つに、しっかりと足を広げるということがあるそうでございます。ご覧のように跳び箱を横にして足を広げるということに意識した練習をしているところになります。続いて走り方について、こちらは城北小学校での様子になります。まずは、実際に走るのではなく鉄棒を使って足の動きをイメージする練習から始まります。その次にしっかりと足を上げて、目標まで足を出すというような練習をしているところで、最後に実際にみんなで走ってみようという感じで進められております。

次に中学校ですけれどもダンスの様子になります。中学校のダンスは2012年度から必修になっておりますが、ダンスを教えることができる先生というのはなかなかいっしょにいないということで、どちらの学校も苦勞されているということもございまして区内の4校の中学校4校とも、ダンスのインストラクターを派遣しております。

こちらは旭東中学校の様子になります。基本的な動作につきましては全体練習をした後に、グループごとに分かれましてみんなの前で発表するということです。ちょっと動画を見ていただきます。ダンスの基本動作を入れながら、構成とか、位置取り、あるいはフォーメーションなどそれぞれのグループごとに生徒たちが自ら考えて構成しています。1つの作品ということで、みんなの前で発表するということになっております。ほかのグループの発表を見て称え合うというのも教育の1つになっているようでございます。みんながそれぞれのグループを盛り上げて発表に華を添えているという感じでございます。「運動能力等向上サポート」事業の紹介は以上になります。

○鶴身旭区役所生活支援課長

私からは項番1-2-3、「あさひ育み学び舎事業」の特徴的な取組をご紹介します。本事業は中高生を対象として、学習支援、自立支援、居場所提供を行っております。

中でも自立支援のイベントとして仕事体験や様々なワークショップを開催し参加者に自分の夢を考えてもらえる機会を提供しております。昨年の11月に旭区内のいのたに工務店さんにご協力いただきまして、大工さんの仕事に挑戦してもらいました。職員さんと一緒に鉋や墨壺作業をして、環境に優しい木を使った組み木作りに取り組んでいただきました。

この画面は今年の3月に「自分に向いているお仕事ってどんなの」と題しまして開催いたしました。ハローワーク梅田の大阪若者ハローワークにご協力いただき、インターネット上の仮想空間、バーチャル若者ハローワークの中のハローワークなどを探

検しました。イベントの参加者がその仮想空間の映像を熱心に見ていただいていたことがとても印象的でした。

そして本年度からの新たな取組、イベントとして「大学ってどんなところ」を開催します。このイベントの概要は、摂南大学の大学生が自ら考え、事前に中高生への接し方を大学生が学んだ上で実施されます。大学生活がどんなものなのか、あるいはどんな学部があるのかなど、イベントの参加者が大学生から直接教えてもらえるワークショップとなっております。これらの自立支援のイベントの開催目的は、イベント参加者の職業観の育成が主なものとなっておりますが、一方で本事業の参加者だけではなくても、イベントのみの参加を可としておりますのでイベントの参加がきっかけとして本事業の参加者となったケースが昨年度もございました。今後も中高生のニーズに寄り添った実践イベントを開催することで、イベント当日のより多くの参加者を集めることはもちろん、その後の本事業への参加者を獲得できるような魅力あふれる自立支援イベントを企画、開催してまいりたいと考えております。以上、「あさひ育み学び舎事業」の取組でした。

○宮崎旭区役所企画課長

では資料1の2ページ目に戻っていただきまして、ページの下段に記載しておりますアウトカム指標の達成状況になります。設定しております指標は、「区役所から連携や支援が得られていると答えた学校」ということでございます。各学校にアンケートを実施しておりまして、学校の先生方から「走り方の授業後実施した体力テストの成績がアップした」とあるとか、「専門講師の指導が非常に参考になった」というようなお声をいただいております。全ての小・中学校より「支援が得られている」という回答を得ております。ということで目標としては「達成」としてしております。その右側に記載をしております課題になりますが、小中学校の教育支援につきましては、一部事業に取り組むことができていない学校がございまして各校が取り組みやすいよう調整を図る必要があると認識をしております。また、中高生の自立支援につきましては、事業を必要とする中学生が潜在的に一定数いると考えられておりまして、それらを必要とする中学生にいかにして繋げていくかということに向けまして、関係機関との連携体制の構築が課題であるというふうに認識しております。その下の今後の対応方向としまして、小中学校の教育支援につきましては、学校のニーズや実情・現状

に把握に努めながら学校が活用しやすい事業内容となるよう引き続き調整を図ってまいります。

また、中高生の自立支援につきましては、全中学校向けの事業周知や個別のアプローチができるよう、各中学校、関係機関等の連携強化と協力体制の構築に向け取り組んでまいります。以上になります。

○戸田旭区役所保健子育て課長

続きまして3ページ、戦略2-1 人生百年時代の健康づくりについてご説明をさせていただきます。取組実績の一番上にあります「あさひ健康大学」についてご説明をさせていただきます。旭区では区民の皆様がいつまでも健康的かつ活動的に生きられるよう健康寿命の延伸をめざしまして「あさひ健康大学」を毎年開催しております。健康大学は健康づくり、介護予防を目的とした「健幸増進コース」と「栄養コース」の2種類が開催されておりますが、今日は健幸増進コースについてご説明をさせていただきます。

「健幸増進コース」の健康は健康の「健」と幸せの「幸」を掛け合わせた造語になっております。この言葉には、区民の方がいつまでも活動的で、健やかに幸せに暮らしてほしいという願いが込められております。健康づくりと介護予防につきまして、学んだことを生活の中で実践し、旭区健康づくり推進協議会「わかばの会」などの活動を通じて啓発できる担い手を育成することを目的としております。

旭区の特徴としましては、地域で展開している「いきいき百歳体操」のサポーターとしての地域の健康づくり活動の担い手を育成することも目的の1つとなっております。「あさひ健康大学」は年に1回開催しております。対象は旭区にお住まいの方ですが過去に同コースを修了された方は対象外となっております。

講座の内容は医師や歯科衛生士などの専門職による講習、百歳体操などの実習、グループ討議などを行っています。また先ほども申し上げましたとおり、旭区の健康大学の特徴は百歳体操のサポーター養成講座が併設されていることになっております。

受講日数は全6回で週に1回開催してます。4回以上受講された方については、修了証をお渡ししています。

こちらが健康大学の様子になります。健康づくり、生活習慣病予防のために重要である運動について学びます。同窓生になられる皆様は仲間としての結束が生まれて、

1人では続けられなくても、みんなと一緒に取り組めば続けていけることを実感する機会となっています。

また、自分の生活習慣を振り返って改善することが大事ということを学びますが、わかってはいてもなかなか継続することは難しい。どう取り組めばいいのか、みんなと一緒に考える中で、仲間意識が芽生えてまいります。

「あさひ健康大学」では百歳体操サポーター養成講座を同時に開催しており、この講座のみを受けられる方もおられます。実際に百歳体操を経験しながら、サポーターの役割の秘訣を学びますが、いきいき百歳体操は一番有名な体操で、おもりを足とか腕につけて座って筋力運動をする。これがいきいき百歳体操になります。ちなみに食べる力や飲む力、口の動きを向上させる「かみかみ百歳体操」とか、頭をしゃきっとさせる頭の体操を含めた「しゃきしゃき百歳体操」がありますが、当講座では「いきいき」と「かみかみ」の2種類を体験してもらっています。

健康大学の卒業者は百歳体操のサポーターさんとして活躍されている方もおられます。これは地域での百歳体操の様子になります。

また、こちらは旭区の独自の取組なんですが、百歳体操のサポーター交流会を開催しています。健康大学を卒業されて、この交流会に参加される方もおられます。ここでは継続して運営するための工夫とか困り事などの情報共有を図っていただいてこれからも頑張っていていこうと思える有意義な会となっています。

健康大学をきっかけにして健康づくりや介護予防の正しい知識を身に付け実際に取り組んで、家族や友達などの地域の人を誘って楽しく活動する。そんな活動の輪がどんどん旭区中に広がっていくと我々は願っております。旭区は引き続き安心して暮らせるまちづくりをめざし地域で行われている健康づくりや介護予防の生活を後方支援してまいります。

資料下側のアウトカム指標のところに移らせていただきます。健康啓発事業参加者の満足度の割合につきまして、「あさひ健康・食育フェスタ」に参加された方のアンケートにおいて満足と回答された方の割合が90%となっております。目標設定が85%であったため、達成となっております。しかしながら、取組実績の中段、がん検診の受診率のところを見ていただくと、がん検診の受診率については横ばい状態ということがわかっていただけたと思います。今後につきましては受診勧奨の強化を進める必要があります。「あさひ健康・食育フェスタ」の実行委員会は旭区内の健康に関わる団体

で構成されていますので、令和7年度からこの実行委員会と併設させる形で、旭区すこやか大阪推進委員会というネットワークを築きそこで健康づくりに関わる情報共有を行って周知啓発活動を強化する動きをとっているところでございます。また、地域における健康づくり、先ほどの健康大学とか百歳体操サポーター交流会、こちらを継続的に実施いたしまして、地域担当の保健師が直接訪問させていただくことなどによって、地域に根付いた地域のための居場所となるよう、しっかり後方支援に努めさせていただきます。私からは以上です。

○長谷村旭区役所福祉課長

続きまして戦略2-2 誰もが暮らしやすいまちづくりについてでございます。資料の4ページをご覧ください。戦略2-2の具体的取組の表の項番2-2-1 誰もが活躍できる仕組みづくりの推進をご覧ください。取組実績ですけれども、障がいのある方が活躍できるよう支援する取組として、授産製品の販売支援を継続したほか、舞台発表や作品展示などを通じて、障がいのある方に対する理解と交流を深めるイベント「なごんで座談会」を開催しております。また障がいがある、あるいは発達の子どもの保護者の方を支援する相談会やセミナーも継続開催いたしました。資料の方ですけれども、1つ右の列の課題というところなんですけれども、障がいに対する理解をさらに深め、誰もが認め合って暮らせる地域づくりが課題ということで、そのためにはこれらの事業の引き続きの取組が必要と考えております。

続いて項番2-2-2 誰もが安心して暮らせる仕組みづくりの推進をご覧ください。取組実績として9月の認知症月間の広報や旭区認知症安心ガイドの改訂等に取り組んだほか、緊急時の個人情報に記載するお守りカード、緊急情報シートの普及啓発を行ってまいりました。資料の方ですけれども1つ右の列の課題ですが、支援が必要な方への情報の量と質を向上させることが課題であり、また地域での見守りネットワークの更なる拡充等が必要と考えております。また災害時の要支援者の支援体制については、区の防災担当とともに取組を進める必要があると考えております。

アウトカム指標ですけれども資料4ページ左下の達成状況でございます。指標は2点ございまして、いずれも当事者の方が相談やサポートを受けられるようになっていると感じた割合を指標としております。

1点目は障がいのある方やその家族の方を対象としておりまして、福祉サービスを利用されている方々へのアンケートで7割以上がそのように受けられるようになっていと感じておられるということでございますので、目標は達成としております。

また2点目は、高齢者やその家族の方を対象としておりまして、高齢者対象事業の参加者アンケートで73.3%となっております。目標である75%には達していませんが、目標年度までに達成できると見込んでおりまして、目標達成に向け、取組を強化してまいりたいと考えております。

次に課題ですが、情報を届ける仕組みや支援の取組が不十分と認識しておりまして、今後の対応方向としましては、障がいがある方に対する支援は当事者のニーズに沿ったものを模索していくほか、高齢者に対する取組においては、旭区認知症ガイド等を活用した認知症への理解促進や相談機関、またお守りカード等の普及啓発に新たに医療機関の協力を得て進めてまいりたいと考えております。さらには関係機関との連携により、見守りネットワークを強化し、課題を抱える当事者世帯が支援に繋がることができるよう、各種の取組を実施、継続してまいります。以上でございます。

○仙田旭区役所地域課長

続きまして資料5ページとモニターの方をご覧ください。私からは戦略3-1 地域コミュニティの活性化についてご説明をいたします。前の画面では高殿地域の「いいね！高殿祭り」の写真を掲載しております。

はじめに地域活動協議会による自立的な地域運営の促進についてです。旭区内の全10地域の地域活動協議会ではコロナ禍収束後、防犯、防災、子ども、福祉、健康、文化といった多様な分野において活動が再開され、写真にあります大宮校下のふれあい喫茶や、写真ですけれども城北校下の高齢者食事サービスの様子です。次に新森校下の盆踊りや夏祭りなど、ほかにも運動会や防災訓練など地域の皆さん全般を対象とした事業を展開しております。そして地域活動協議会の組織運営や会計に関するアドバイスをを行い、地域の活動基盤強化にも取組を行いました。さらに、従事者向けの情報交換会を開催し、活動状況の共有や課題解決のための意見交換会の機会を設けました。

次にスポーツ・文化等によるコミュニティの育成では、区民まつりや文化祭、スポーツ大会などの開催を通じて、地域の繋がりを深める場を提供することができました。こちらは区内の各種団体によるスリーアイズ大会の様子です。様々な団体が参加

され、交流を深めることができました。こちらは「旭区文化芸術発表会」の様子です。これ以外にも「区民文化映画祭」、「子どもお祭り広場」など、「旭区総合文化祭」として約 3000 人の方にご参加をいただきました。

次に、生涯学習の推進では推進連絡会や学習ルーム事業、「生涯学習ルームフェスティバル」などを実施し、学びの機会を広げています。こちらの写真は旭区民センターで開催された「生涯学習ルームフェスティバル」の様子です。

次に人権施策の推進としては、「ふれあいシアター」や「じんけんあさひ」の発行、「にほんご教室」の開催、人権相談などを通じて、誰もが尊重される地域づくりを推進いたしました。こちらは今年の 3 月に人権啓発推進員の皆さんで鶴橋にある大阪コリアンタウン歴史資料館を見学に行ったときの写真です。こちらの写真は「にほんご教室」の生徒さんとの七夕祭り交流会の様子です。日本の文化を体験していただくことができました。

6 年度のアウトカム指標の達成状況については、当初予定をしておりました市で実施している地活協構成団体向けのアンケートが廃止されたため、数字的な結果は得られませんでした。一方で令和 7 年度の指標、「地域の実情に即した支援が実施されていると思う」と答えた割合は 100%と高い評価を得ています。これからも、きめ細やかな支援を実施してまいります。一方で、いくつかの課題も浮き彫りとなりました。まず令和 7 年度から補助金システム導入に向けた理解や操作習熟が地域によっての差がある点、またコロナ禍以降の地域コミュニティの希薄化、担い手不足、活動従事者の高齢化、共働き世帯の増加による参加困難など持続可能性の面で課題を抱えております。イベントの認知度にもばらつきがあり、情報発信力の強化が求められています。これらの課題を踏まえ、今後は次のような方向で対応いたします。まず補助金システムについては、各校下ごとに個別の説明会を開催し操作への習熟を丁寧に支援してまいります。また、地域イベントに参加経験のない層に向けた広報の支援を強化し、興味を持つ人材の発掘と担い手の確保に努めてまいります。地域活動の効率化に向けては、実行委員会形式など労力分散の手法やデジタル化の推進を進めてまいります。広報面では区の広報紙やホームページ、SNS などを活用し、各催しの認知度を高めてまいります。以上、引き続き、地域に寄り添った活動の支援を行い、誰もが参加しやすいまちづくりの取組を進めてまいります。私からは以上でございます。

○宗光旭区役所まち魅力課長

続いて裏面 6 ページをご覧ください。戦略 3-2 地域資源を活用したまちの魅力づくりですが、まちの魅力を高める取組の具体的取組といたしましては、当年度の取組実績にありますように、魅力ある城北公園で楽しむにぎわいイベント、「あさひファン★フェスタ」をはじめ、各種事業に取り組みました。本日は代表的な取組といたしまして春の取組、「あさひファン★フェスタ」と秋の取組、「あさひわくわく♪キーワードラリー♪」について前方の画面の方でご紹介をさせていただきます。

まず 6 月に実施しました「あさひファン★フェスタ」ですが、昨年度で 3 回目の開催となります。来場者数が 2 万 4000 人と、第 1 回目と比較して 4 倍と非常に多くの方にご来場いただきました。令和 6 年度から小さな子どもさんにもできるだけ参加いただけるようにということで、会場にキッズエリアを設けまして、ご覧のとおり消防車両等、複数のはたらく車の展示などを行っております。また、子どもさんに喜んでいただけるゲームコーナーや、あとは体験コーナーですね。大工大さんのスライムづくりの様子なんですけれども、こういったところとキッズエリア全体の様子をちょっと見ていただこうと思っています。本当にお天気もよかったということで非常に多くのご家族連れの方にご参加いただきました。その他、会場の様子をご覧ください。いろんな出店メニューがございまして、あとはステージの方なんですけれどもこちらの方も動画をご覧ください。万博 PR ステージということで万博のテーマソングに合わせたキッズダンスなど、家族皆さんで楽しんでいただけたのではないかなと思っています。

次に秋のイベントとしまして、商店街やお宝店舗など区内の魅力ポイントを巡っていただく「あさひわくわく♪キーワードラリー♪」です。こちらに出ておりますのが皆さんに配布しておりますチラシになるんですけれども、中をめくっていただくと、各ラリーポイントをマップ上に示しております。こちらはラリー期間の最終の土日に抽選会を実施しており、こちらが会場の様子でございます。こちらも前年度を上回る参加者がいらっしやいまして、その内訳としましては、10 代までの参加者が一番多く、続いて 30 代、40 代ですね。多くのご家族連れの方にご参加いただき、楽しんでいただきました。また、参加協力いただきましたお宝店舗さん等も年々増加している状況でございます。こちらが各協力店舗さんのお店の前にキーワードを貼り出している様子でございます。スライドは以上になります。

シートの方にお戻りいただいて、ページ下段のアウトカム指標の達成状況のところですが、設定しております指標、イベントなどの取組が旭区の魅力を高めることに繋がると思う参加者の割合につきましては、実施しましたそれぞれのイベントなどで来場者や参加者の方々にアンケートを実施しております。その中でですね、「活気があって楽しいイベントでした。」、「旭区の魅力が伝わりました。」、「あたたかい手づくり感が旭区らしくてよかった。」などの声をいただいております。旭区自身が持つ魅力を楽しんでいただけたと思っております。結果なんですけれどもその割合が 95%ということで目標を達成いたしております。

次に課題のところですが、引き続き区民や地域商店街等、皆様のご意見を踏まえながら、城北公園や商店街などまちの魅力を通じて、旭区らしさやにぎわいを感じていただき、人と人との繋がりやまちのにぎわいなど旭区の魅力を広く発信し続ける必要があると考えております。今後の対応方向といたしましては、取組の内容を充実させて、幅広い世代の方、多様な方々に魅力を発信していき、そして区内の交流を活発にし、新たな繋がりや絆を深めて、旭区の住みやすさに共感していただけるよう、まちの魅力向上に繋がる各取組を区民の皆様とともに進めてまいりたいと考えております。私からは以上です。

○簗内旭区役所防災安全課長

私からお手元資料の 7 ページの戦略 4-1 について説明いたします。取組実績としては防災啓発をはじめとして 7 つの項目について取組を行いました。その中で代表的な取組 2 項目について説明いたします。

項目の 2 つ目の防災訓練ですが、モニターの写真は、地域におきまして実施されました避難所の開設運営訓練の様子です。町会の役員や防災リーダーをはじめとして多くの方々に参加していただいております。モニターの写真にありますように避難所での受付から炊き出しなどの訓練をそれぞれの役割分担のもと、それぞれの地域の実情に合った訓練内容で、10 地域全てで実施していただいております。今回の写真は、高殿での訓練の様子を紹介させていただいております。また、防災リーダーの訓練につきましては旭消防署の協力のもと、各公園等に設置されている可搬式ポンプや倒壊物からの救助訓練、ロープの結索訓練等を行い、こちらも 10 地域全てで実施していただいております。その中で特に今年度は既に実施されましたが、防災リーダーさんのご尽力により、清水地域と新森地域におきまして、今まではそれぞれ別々に訓練が

実施されておりましたけれども、合同で実施するという試みがございました。本日はその写真の風景を紹介させていただいております。実際に訓練が終わった後にはそれぞれの防災リーダーの隊長さんにより、自分たちの地域が災害に見舞われたら、それぞれ助け合いましょうといった確認がなされ、地域を越えた新たな共助の体制が築き上がっております。

続きまして、取組実績の3項目目、「旭区防災教育事業」は小学校と中学校それぞれで実施しております。小学校の防災教育では、土曜授業を活用して保護者が参加のもと、モニターの写真のように新聞紙でスリッパを作り、ペットボトルの破片の上を歩く、水消火器の体験や起震車での揺れ体験など、体験型の内容を中心に子どもたちが関心を持っていただけるような内容として、地域の方々や消防署の協力のもと実施しております。中学校では大阪公立大学の教授を招いて、それぞれの学校に応じたプログラムで講義を行っていただくとともに、グループワークを通じて自ら考えて行動するといったことを身に付けていただくことを目的に、防災授業を行っております。

アウトカム指標の達成状況といたしましては、地域実情に即した訓練を10地域で実施するということを目標に掲げ、令和6年度につきましては全ての地域で実施することができました。しかしながら一方で課題といたしまして今後も持続的に活動を行うために、担い手の育成や参加促進が課題として認識しております。今後の対応の方向性としていたしましては、より参加しやすい訓練の実施など、新たな層の参画に向けた環境整備を進めてまいりたいと思っております。

続きまして次にお手元の資料の8ページ、戦略4-2 地域防犯力の強化についてご説明させていただきます。こちらは主に、防犯対策や交通安全、自転車マナーアップ等の取組を行っております。防犯対策といたしましては、青色パトロールや学校園等において、防犯教室を旭警察署と連携して行いました。また、今モニターで紹介している写真は、近年増加しております特殊詐欺の防止に向けて、旭警察署や防犯協会の皆様など、関係団体の皆様と一緒に区内の主要ターミナルや交差点などで街頭啓発を行ったものでございます。次に、交通安全、自転車のマナーアップにつきましては、こちらも旭警察署や地域の皆様や関係団体の皆様と協力し、商店街などの主要箇所では街頭啓発を実施しました。写真は自転車走行が禁止されている千林商店街で商店街の役員の皆様、旭交通安全自動車協会の皆様、旭警察署等で啓発を行っている様子でございます。

います。また、交通安全教室として区内の小学校や幼稚園、保育所で、旭警察署と合同で自転車や交通ルールに関する教室を開催し、交通事故防止に努めております。

アウトカム指標といたしましては、区内の重点犯罪と区内の自転車交通事故発生件数の数値的な目標を掲げさせていただいております。令和6年度につきましては、目標は達成させていただいております。しかしながら、アウトカム指標はいずれも達成できているものの前年度に比べて件数が増えているというのが課題となっております。それらの対応策といたしましては、目標を今後も維持達成できるように防犯パトロール活動や防犯啓発などの取組を地域の方々や旭警察署と連携しながら、引き続き実施いたしたいと考えております。私からは以上となります。

○宮崎旭区役所企画課長

最後にただいま各課長からの戦略ごとの説明を踏まえまして、令和6年度の取組の自己評価について総括的に申し上げます。資料の方はこちらの本様式をご覧ください。2枚めくっていただいた右側に自己評価とございます。そちらをご覧ください。

子育て・教育につきましては、子育て支援において妊娠期から学齢期にかけた切れ目のない支援が関係機関との連携が構築されつつありまして、あさひ子育て安心ネットワークを中心とした見守り体制が一定整えられ、旭区独自の取組として定着をしております。また教育支援におきましては、小中学校ともに学力、運動能力等の向上、区内大学との連携によるICTを活用した学習支援に取り組みました。

健康・福祉につきましては健康寿命を延ばす取組としまして、地域とともに百歳体操や認知症予防活動の新規立ち上げに取り組みました。また、福祉分野におきましては関係機関と一体となった見守り活動の支援、活動の場の提供、啓発活動に取り組み、さらには災害時の支援や相談体制の充実、整備を図ってきたところです。

地域コミュニティ・まちの魅力につきましては地域活動に参加したことのない方等へのアプローチに向けまして、ホームページの活動紹介、SNS発信の強化に取り組み、新たな参加者や担い手の発掘に繋げるべく、地域活動にともに参加しつつ、地域コミュニティの繋がり強化に努めました。また、地域や商店街、大学など様々な方々とともに、「あさひファン★フェスタ」や「あさひわくわく♪キーワードラリー♪」などまちの魅力向上のイベントに取り組みました。

防災・防犯につきましては、地域防災におきまして、各地域の防犯防災訓練や防災啓発講座により、防災意識の向上に取り組みました。また地域防犯におきましては、

旭警察署をはじめ関係機関と連携し地域と協働して、防犯・交通安全に係る啓発活動や、自転車対策等、着実に取組を進めたところです。

以上、経営課題の解決に向けまして、総じて進捗していると考えておりますが、一方でめざすべき将来像の実現に向けましてはなお途上でございます。先ほど各課長から説明をしましたように、各戦略の具体的取組における課題がございます。そちらへの対応や改善を図りながら引き続き取り組んでいく必要があると考えております。最後にその下に枠囲みをしております「今後の方針」といたしまして、今後も大スローガンに掲げております、「安心して住み続けられるあたたかいまち旭区」の実現に向けまして、引き続き各取組において、ニーズの把握に努め、関係機関との連携を図るとともに、先ほど各課長から戦略ごとに課題や対応方向につきましての説明の中で、情報発信や広報活動、周知啓発という言葉が随所に出てまいりました。このことをふまえ、より多くの区民の方に「知ってもらう」ということを着実に進め、「関心を持ってもらう」、さらには「参加してもらう」ということを常に意識しつつ、取組を進めてまいりたいと考えております。また昨年、本会議の際に、「指標の目標値などの見直しは行わないのか」というようなご意見もいただいております。運営方針の指標や目標値は現在進めている「区の将来ビジョン」の指標、目標値と連動しておりますので、その取組期間である令和5年度、令和6年度の2ヶ年の結果、さらには現在進行形の令和7年度の状況も踏まえまして、中長期的な視点を持ちつつ、必要に応じてアウトカム指標の見直し等の検討も行いながら取組を進めてまいります。なお具体的な指標の見直しにつきましては、今年度の後半に開催をいたします令和8年度の運営方針の策定時に合わせまして、区としての考え方をお示しし、ご意見をいただきたいと考えておりますので、その節にはどうぞよろしくお願いいたします。引き続き、区民の安心安全の確保や区の活性化に向けましての取組を推進しますとともに、更なる区民サービスの向上や、効率的、効果的な行政運営をめざし業務改善やDX推進なども行いながら取り組んでまいりたいと考えております。少し長くなりましたが区役所からの説明は以上になります。藤田議長、よろしくお願いいたします。

○藤田議長

はい、ありがとうございました。ただいまのご説明で、ご意見ご質問があればお受けいたします。なお、お名前を名乗られてからご発言いただきますようお願いいたします。ではご意見ご質問ありましたらよろしくお願いいたします。

○森田委員

高殿南の森田です。戦略 3-2 のところのまちの魅力づくりについてちょっとお尋ねをしたいと思います。私の意見も出したいと思います。私自身は区政会議の委員として 2 期目で今日がもう最後の参加となりますのでこのまちの魅力についてという 6 ページについて述べさせていただきたいと思います。このまちの魅力を高める取組として、城北公園および菖蒲園の地域資源は欠かせないと考えておられることについて、私も同じ意見を持っています。委員となった令和 4 年度の 1 期目のときに城北公園に関する意見というのをこの場でまとめられて 5 ページにつづったものをまとめていただいております。そのときの取りまとめの内容は今後城北公園の魅力を最大限に活用したまちづくりという観点で区、局、おそらく建設局だと思いますけども連携の素材として協議を重ねていけたら幸いですとやんわりと締めくくられています。この区政会議の委員の方々からいっぱい意見が出たものがあります。その後関係先とはどのような取組が進んでいるのかなと思うとあまり進んでいないのかなと思ったりしています。この 4 月にお迎えした福岡区長も 6 月の「あさひファン★フェスタ」に参加いただいたと思います。会場全体も先ほどのこの動画でご覧いただいたと思うんですけども、私はこうしたイベントを盛り上げるためにはその周辺環境整備がとても大事だと思います。特に城北公園に関わるトイレです。これは 3 年前のときも話をしましたが、城北公園にあるトイレは 1980 年代、約 50 年を経過するようなもので老朽化が著しく、なかなか使いづらいといったものばかりです。ここの 6 ページにあります改善策では認知度を高めるような手法とかいうふうに書かれていますけれども、例えば今、大阪・関西万博は大いに盛り上がってますよね。これも 10 月で終わります。万博の資料を見ると 45 ヶ所ほどトイレがあるというふうに記されてるのでぜひそのトイレの 1 つでもこの城北公園に誘致するというんですか、整備できるような取組をしていただけたらどうかと思います。そうすると、関西万博で活用されたものが城北公園に整備されているということを目にすると、一度見てみようかなとか、どんな近代的なトイレがあるのかなといったことで、興味をそそると思いますし、皆さんはどう思われますかね。本日オブザーバーで来ている先生方もどう思われますか。城北公園イコール建設局ではなくて、旭区全体としての重要かつ貴重な城北公園、菖蒲園の地域資源をさらに魅力的に生かして、一丸となって関係機関などに積極的に働きかけても

らえれば嬉しいかなと思います。この区政会議が地域の意見を受け止めていただいて反映させていただけるような会議があればいいと思っています。以上です。

○藤田議長

はい、ありがとうございました。今のご意見に対して事務局からご回答をお願いします。

○宗光旭区役所まち魅力課長

そうですね。城北公園は本当に区民の方にとっても愛されている公園です。私達も各種イベントで必ずお聞きしております。「あなたにとってのまちの宝は何ですか」ということで、城北公園とあと商店街ですね、必ず上位を競っているような状況でございます。そういった旭区の大きな魅力である公園を活用して、春に「あさひファン★フェスタ」を開催させていただいているんですけれども、森田委員にもイベントに賛同いただいていると思ってちょっと喜んでいるところです。トイレを含めた公園の環境整備に関することについては企画課長の方から説明させていただきます。

○宮崎旭区役所企画課長

トイレの担当課長ではないんですけれども、城北公園の魅力向上にむけてという意味でのご質問と理解させていただきます。城北公園に関わります要望につきましては、森田委員にご紹介いただきましたように、区政会議委員の方々にいろいろ出していただいたものを項目別に整理をして建設局に届けております。その後どうなっているのかということで、あまり進捗が見られないという厳しいご指摘もいただいたところなんですけれども、建設局においては公園緑化部の中で旭区の要望ということで、「共有が図られている」と聞いておりますし、区役所としてもそのように認識しております。次のタイミングといえますか、公園の改築、改修工事であるとかそういう工事のタイミングでは、必ずこの表を見て要望に沿うように設計してくださいということで、一定コンセンサスは局と我々の中では得ているつもりでございますが、なかなかその工事のタイミングがやってきていないというのが実情でございます。時宜を捉まえて、折に触れ引き続き粘り強く言い続けたいといけないというふうに感じているところでございます。

それから、旭区で「生江3丁目北部地域のまちづくりビジョン」というものを作成しておりまして、当該の地域には本市の未利用地がいくつかございます。昨年の3月に最も大きな未利用地が売却をされまして、大手マンションデベロッパーさんが買い

取られて、令和9年の9月の完成に向けまして、今工事が進められようとしております。ここに大きな新しいコミュニティが誕生し、新しい住民の方が増えるということが大きく見込まれますし、その横に今言っていた区民の方に愛されている城北公園があるということでございますので、新しいコミュニティの醸成のためのきっかけづくりとなるような仕掛けを何かできないかということで、今区役所の方で考えておりまして、年に1回の「あさひファン★フェスタ」のような大きいイベントではないんですけれども、定期的に地域を中心に何か催しが行われて、そこに参加する人がいて、それをきっかけに住民同士のコミュニティが進むといろいろなお話がそこで盛り上がるというようなところをめざして、ただいま検討中でございます。今年度中には何らかの形として実施をしたいと思っておりますので、また、その際に周知をさせていただきますので、ちょっと足を運んでいただけたらなと思っております。

○松原旭区副区長

万博のトイレを城北公園へ誘致できないかということで貴重なご意見本当にありがとうございます。なかなか僕たちだけでは考えつかないような意見だと思います。果たしてそれが可能なかどうかというのはちょっと私もわからないところですが、一度このような話があったということについては内部でまた検討させていただき、必要な関係機関にご相談をかけたいと思います。本当にありがとうございます。

○藤田議長

はい、ありがとうございます。ほかにご質問ご意見等、はい、どうぞ。

○齋藤委員

公募委員の齋藤です。お世話になります。経営課題2のアウトカム指標のところで、障がいのある方やその家族の方が様々なことについて、相談やサポートを受けられていると感じるところなんです、制度とかに関しましては、区の方できっちりしていただいていると思うんですがもっと具体的な例として、日頃の生活の中で、家族で意思伝達とかがうまくできない障がいのある子どもがうまく親に伝えられなくてイライラして怒ったというのは、私実は自立支援の子ども部会にありましてそういう声を聞いたことがあるんです。自分の意思を伝える方法というのは、今ICTが非常に進んでおりまして、タブレットとかいろんなところでアクセシビリティが進んでおりますのでそういうことでもし相談があったら、どこで答えられるのかというのをきっちり答えられるのかということを窓口で答えられるのかというのがちょっと疑問なん

です。基幹相談センターも全部はご存知ないような感じなんですね。ですから、たまにそういう勉強会みたいなものを作っていただけたら、こういうことを知りたかったって後から、私は IT ステーションで仕事してるんですけど、それを知っていたらもっと早く知ってたらもっと良かったのにと声を聞いているんです。支援学校でも器具はもらっても、やり方教えてもらえなかったっていう声もあったので、たまには意思伝達の方法とかの勉強会もしていただけたらなと思います。以上です。

○長谷村旭区役所福祉課長

福祉課長谷村でございます。貴重なご意見ありがとうございます。意思の伝達が難しいお子さんということで確かにそういう方がたくさんいらっしゃって、養護者の方、親御さんであったりとかご家族の方であったりとかということでご苦労されているというのがよくわかるかなと思っております。

私どももそのサービスを繋げるところで、ちょっとご案内したりとかっていうところは少し窓口対応において十分ではないのかなというふうに反省はさせられました。今のご指摘のとおりかなと思います。ですので我々職員側のスキルアップというところにおきまして、様々な勉強会をといますか研修とかをやってはいるわけなんですけれども、ぜひそういった問い合わせとかご相談があったときにどのようにお答えしたらいいのかという部分については少し勉強をさせていただきまして、的確なお答えができるように努力してまいりたいと考えておりますので、しばらくちょっとお時間いただけたらなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○藤田議長

よろしいですか、ありがとうございます。他にはご意見よろしいでしょうか。では以上で予定されていましたが議題は終了しましたので、進行を事務局にお返しします、よろしくお願いします。

○大町旭区役所企画課担当係長

藤田議長、進行ありがとうございます。加藤副議長をはじめ委員の皆様もどうもありがとうございました。続きまして次第5その他につきまして私から説明させていただきます。

次第5その他につきましては、アンケートのお願いでございます。委員の皆様の封筒の上に、区政会議委員評価についてというゼムクリップ留めのものと、区政会議に関するアンケートについてというゼムクリップ留めのものの2種類置かせていただい

ております。今回の一連の会議で令和6年度の運営方針の区役所の自己評価をご説明させていただきまして、様々なご意見をいただいたところでございます。委員の皆様方からの評価をお願いしたくご依頼させていただくものでございます。皆様お忙しい中大変申し訳ございませんが、8月29日までに返信用の封筒もお渡しさせていただいておりますのでそちらでご返送の方お願いいたします。また通常メールでやり取りさせていただいております委員の皆様につきましては、別途データの方も送らせていただきますので、そちらでご回答いただいても結構ですのでどうぞよろしくお願いいたします。次第5その他につきましては以上でございます。

○宮崎旭区役所企画課長

すみません、企画課長の宮崎です。区政会議委員の改正につきまして少しお話をさせていただきます。区政会議委員は2年を1期としております。本年がこの2年に1度の改選の年に当たっております。改選にあたりましてのご案内でありますとか委員への推薦のご依頼に関わりましては、各推薦母体の団体さんに別途させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

区政会議委員は2期4年まで続けていただくことが可能でございますが、この9月末をもちまして一旦の現任期が満了ということになりまして、先ほど森田委員のお話にもありましたけれども、本日のこの会議が現委員での最後の会議となります。委員の皆様方には、区政会議の運営に当たりましてご理解ご協力をいただきましたことを改めまして御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。とりわけ、今期をもって2期4年が満了する方におかれましては本当に4年という長い間お世話になりました。今後、区政会議委員という立場ではなくなるわけでございますが、引き続き、地域からあるいは各組織のお立場から旭区政を支えいただきますよう、心からお願い申し上げます。本当にありがとうございます。

○大町旭区役所企画課担当係長

本日の会議は以上となりますが会議の終了に当たりまして、区長よりご挨拶申し上げます。

○福岡旭区長

皆様お疲れの折、長時間にわたり本当にありがとうございます。また、藤田議長様、円滑な議事進行とご報告、また、加藤副議長も部会のご報告ありがとうございます。

した。繰り返しになりますけれども、本日の会議をもってご退任される皆様方、この間のご尽力、改めて深く感謝申し上げます。

先ほど城北公園のさらなる魅力向上に係るご提案であるとか、障がいのある方への支援といった貴重なご意見をいただいたところでございます。今後、区政を推進する上での新たな目線、気づきを与えていただいたのかなというふうに受け止めております。今後の様々な局面において参考にさせていただきたいと思っております。

着任以来、私自身旭区の素晴らしさというのを折に触れ、挨拶でも言わせてもらっているのですけれども、今日も実は地域課からの報告があった中で、地活協の補助金のシステム会計処理に関するアプリの導入を今市役所も躍起になって、全地域活動協議会でやってほしいと旗を振っているのですけれども、操作の面であるとか、今までのやり方の方がいいといった状況があり、なかなかやってくれない区があります。ところが、今日私改めて聞いてびっくりしたのですけれども、旭区は10の全部の地域活動協議会でアプリを使ってくれているというのです。もう本当にびっくりしたというか意識が高いというか、それだけやっぱり地域に対する想いを持って取り組んでくれているんだなというのを実感した次第でございます。

今日、長時間の中で、ご意見を表明されなかった方も、いろいろまた熱い想いがあるろうかと思います。また折に触れ、区役所の方に対してもいろんなご指導、ご助言をいただければと思っております。本日は長きにわたり本当にありがとうございました。

○大町旭区役所企画課担当係長

それではこれもちまして、令和7年度第1回旭区区政会議を終了させていただきます。ありがとうございました。